

令和4年度

栃木県小学校教育研究会 社会科研究大会
下都賀大会 公開授業

ふるさとに誇りをもち、ともに夢に向かって
たくましく生きる児童の育成

～社会的な見方・考え方を働かせて問いを追究し、進んで社会に
関わろうとする子どもを育てる社会科学習～



令和4年10月27日(木)

栃木市立大平南小学校

【指導者】

栃木県教育委員会事務局 下都賀教育事務所 指導主事

大塚 亮太 先生

栃木市教育委員会 学校教育課 グローバル教育推進室 室長補佐兼指導主事

大橋 信広 先生

【授業者】

4校時 5年2組 福地 雅大 教諭

5校時 4年2組 落合 安純 教諭

【日 程】

会場・知新館ホール

時 間	日 程	内 容
11:10~11:55	4校時	5年2組 研究授業 社会科「情報を生かして発展する産業」 オンデマンド配信
13:20~13:40 13:40~13:50	受 付 日程説明	下小教研参加者オンライン受付 ① 会場校長あいさつ 栃木市立大平南小学校 校長 服部 紀子 ② 授業の視点、説明 栃木市立大平南小学校 研究主任 野中 洋史
14:00~14:45	5校時	4年2組 研究授業 社会科「自然災害からくらしを守る仕事」 ライブ配信、オンデマンド配信
15:00~16:10	全体会	① 研究実践発表 ② 指導講評 ライブ配信、オンデマンド配信

【全体会次第】

進行:副支部長 栃木市立大平東小学校長 亀田 浩史

- 1 開 会
- 2 主催者あいさつ 栃木県小学校教育研究会社会科部会 部会長
宇都宮市立豊郷北小学校長 麦倉 克英
- 3 研究実践発表 栃木市立大平南小学校 研究主任 野中 洋史
- 4 指導講評 栃木県教育委員会事務局 下都賀教育事務所 指導主事
大塚 亮太 先生
栃木市教育委員会 学校教育課
グローバル教育推進室 室長補佐兼指導主事
大橋 信広 先生
- 5 謝 辞 栃木県小学校教育研究会社会科部会下都賀支部長
栃木市立西方小学校長 岩出 岳
- 6 閉 会

目次

1 研究の概要

○研究主題	3
○研究の視点	4

2 研究の実際

○4年生「自然災害から暮らしを守る仕事」	5
研究の成果	1 3
研究の課題	1 4
○5年生「情報を生かして発展する産業」	1 5
研究の成果	2 1
研究の課題	2 2

3 公開授業指導案

○4年生「自然災害から暮らしを守る仕事」	2 3
○5年生「情報を生かして発展する産業」	3 4



研究の概要

令和2年度～令和4年度

栃小社研 研究主題

社会的な見方・考え方を働かせて問いを追究し、
進んで社会にかかわろうとする子どもを育てる社会科学習

大平南小 研究主題

ふるさとに誇りをもち、ともに夢に向かって
たくましく生きる児童の育成

目指す子ども像

- ・社会的事象の研究を通して社会の仕組みが分かり、
確かな社会認識をもつことができる子ども
- ・社会の一員として、様々な人々と進んで連携・協力しようとする子ども



研究の概要

研究の視点

- ① 育てたい力(資質・能力)を身に付けるための教材開発
- 2 問いの構成・デザイン(構造化)の追究
- ③ 「仕掛け」としての学び合いの工夫
- 4 子供に寄り添う指導・評価の工夫

* 大平南小では、この2つに力を入れ研究を進める



研究の概要

視点1 育てたい力(資質・能力)を 身に付けるための教材開発

- ・社会的事象を自分事としてとらえ、「社会科的な見方・考え方」を働かせることができる教材の開発
- ・社会的事象における学習の課題を追究し、選択・判断を迫ることができる教材の研究・開発



研究の概要

視点3 「仕掛け」としての学び合いの工夫

- ・社会的事象について考えたことや選択・判断したことを説明する場面や議論する場面の設定
- ・資料等を用いて、作品や図表に表したり、調べたことや理解したことを表現する場面の設定
- ・社会的事象について、多角的に考え、議論することができるような発問の工夫



研究の実際 4年生「自然災害から暮らしを守る仕事」

4年生「自然災害から暮らしを守る仕事」
の実践を通して



研究の実際 4年生「自然災害から暮らしを守る仕事」

○児童の自然災害への意識

地震	68%	台風	} 12%
土砂災害	57%	洪水	
雷	36%	水害	

水害への意識が薄い



- ・自然災害を自分事として捉える
- ・社会的事象への見方・考え方を働かせる
- ・課題を主体的に解決する



研究の視点1

育てたい力(資質・能力)を
身に付けるための教材開発

～児童が主体的に学びに向かうことが
できるような単元展開の工夫～

【研究内容】

- 1 災害タイムラインの活用
- 2 ハザードマップの活用



研究の視点1

育てたい力(資質・能力)を身に付けるための教材開発

【1 災害タイムラインの活用】

- ・災害による被害を想定
- ・市町が発令する避難情報(災害レベル)
- ・用意する物
- ・必要な行動
- ・避難場所

1枚の紙にまとめ、
時系列に並べたもの



研究の実際 4年生「自然災害から暮らしを守る仕事」

研究の視点2

問いの構成・デザイン(構造化)の追究

～確かな社会認識をもたせ、
選択判断を促すための単元展開の工夫～

【研究内容】

- 1 単元を貫く学習問題の設定
- 2 事前アンケートを基にした
問いの構成



研究の実際 4年生「自然災害から暮らしを守る仕事」

研究の視点2 問いの構成・デザイン(構造化)の追究

【1 単元を貫く学習問題の設定】



過去に起きた
栃木市の水害



学習問題

「自然災害から命を守るために、
私たちには、どのようなことができるだろう」



研究の実際 4年生「自然災害から暮らしを守る仕事」

研究の視点2 問いの構成・デザイン(構造化)の追究

【2 事前アンケートを基にした問いの設定】

水害への
意識が低い



身の回りの災害対策・
準備に目を向けさせる

- ①栃木市で起こった水害には、
どのようなものがあるのだろう。
- ②災害にはどのような対策があるのだろう。
- ③災害に備えどのような準備が必要だろう。

「自分たちにできることを災害タイムラインに落とし込む」



研究の実際 4年生「自然災害から暮らしを守る仕事」

研究の視点3

「仕掛け」としての学び合いの工夫

～地域における社会的事象を理解し、
社会への関わり方を選択判断するための工夫～

【研究内容】

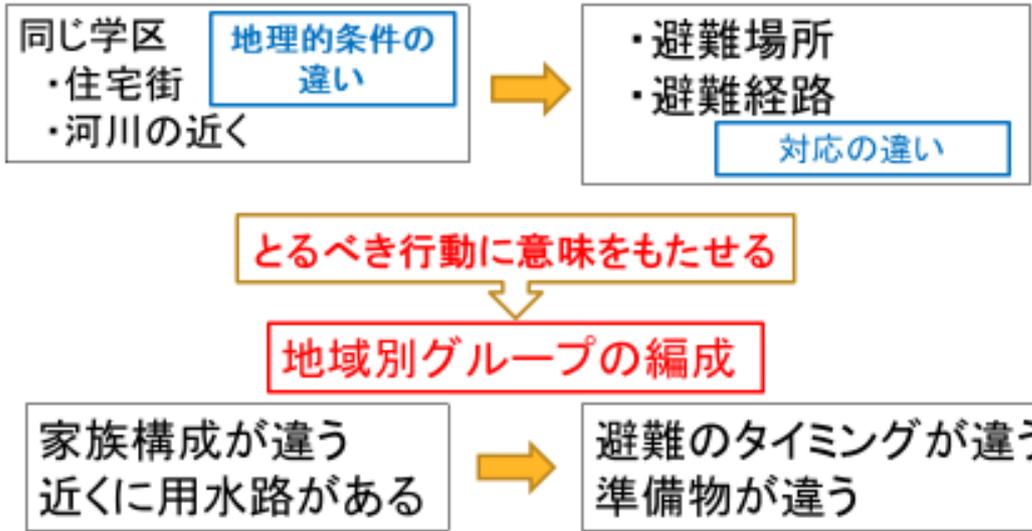
- 1 地域別にグループ編成した話し合い
- 2 家庭との連携



研究の実際 4年生「自然災害から暮らしを守る仕事」

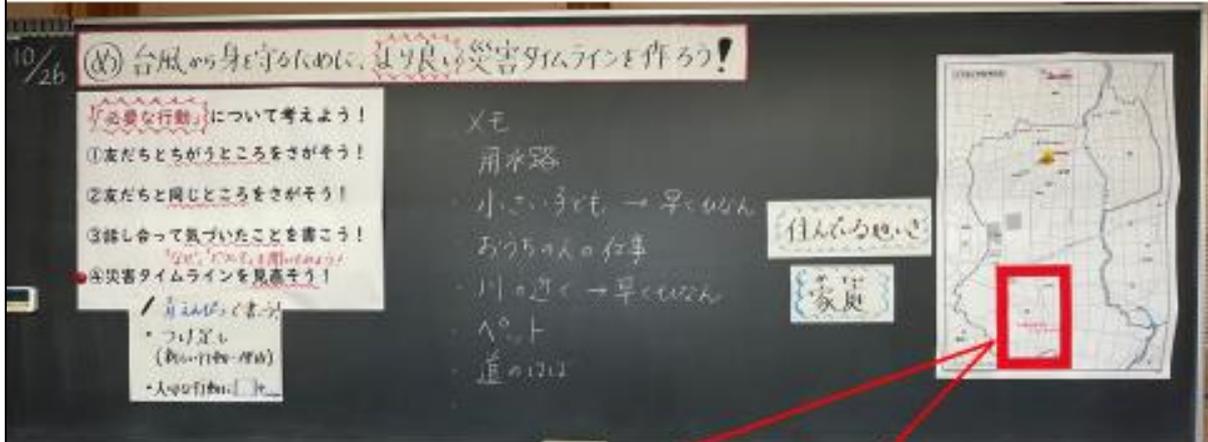
研究の視点3 「仕掛け」としての学び合いの工夫

【1 地域別にグループ編成した話し合い】



研究の実際 4年生「自然災害から暮らしを守る仕事」

研究の視点3 「仕掛け」としての学び合いの工夫



発表している地域を赤枠で示すことで、地域における地理的環境の違いの理解につなげる



研究の実際 4年生「自然災害からくらしを守る仕事」

研究の視点3 「仕掛け」としての学び合いの工夫

【2 家庭との連携】

第10時
タイムラインの作成

【家庭へ持ち帰る】

第11時
地域別グループによる話し合い

～災害タイムライン（必要な行動）の作り方～

- ・ひなんするタイミングを決めましょう。〃
- ・ひなん場所をかくにんしましょう。〃
- ・ひなん方法をかくにんしましょう。〃
- ・レベルごとの行動を考えて書きましょう。〃
(その行動をする理由も考えましょう。)

～災害タイムライン作成例～

災害の種類	避難場所	避難経路	避難方法
地震	机の下、壁のない開けた場所	机の下、壁のない開けた場所	机の下、壁のない開けた場所
火災	机の下、壁のない開けた場所	机の下、壁のない開けた場所	机の下、壁のない開けた場所
津波	机の下、壁のない開けた場所	机の下、壁のない開けた場所	机の下、壁のない開けた場所

保護者様へ
 機会では、「自然災害からくらしを守る仕事」の学習として、災害タイムラインを作成します。作成にあたって、子どもたちから確認や疑問等があるかと思えます。ぜひ、目を通していいただき、被害等のご協力を宜しくお願いいたします。〃

【重要】 避難内にご活用ください

適切な避難で命を守る!

災害・全粒災害から

【重要】 避難とは命を守ることです。安全な場所にいる人は避難場所に行く必要はありません。安全な場所にいる場合は、他人や子どもを避難先まで誘導していただく。避難先で火災などの被害から命を守る。避難先で火災などの被害から命を守る。

STEP1 「5段階の警戒レベル」を知っておきましょう!

警戒レベル	主な対応行動	避難準備	警戒レベル
レベル1	災害への心構えを高める	避難準備	警戒レベル
レベル2	避難行動を確認	避難準備	警戒レベル
レベル3	避難行動を確認 避難行動を確認	避難準備	警戒レベル
レベル4	避難行動を確認 避難行動を確認	避難準備	警戒レベル
レベル5	避難行動を確認 避難行動を確認	避難準備	警戒レベル

※この図表は、避難行動の目安として作成されています。実際の避難行動は、避難先での状況に応じて適切に行ってください。



研究の実際 4年生「自然災害からくらしを守る仕事」

研究の視点4

子供の実態に寄り添う指導・評価の工夫
～児童の振り返りを導入に生かす単元展開の工夫～

【研究内容】

- 1 単元構造図を活用した振り返り
- 2 子供たちの実態に即した導入



研究の実際 4年生「自然災害からくらしを守る仕事」

研究の視点4 子供に寄り添う指導・評価の工夫

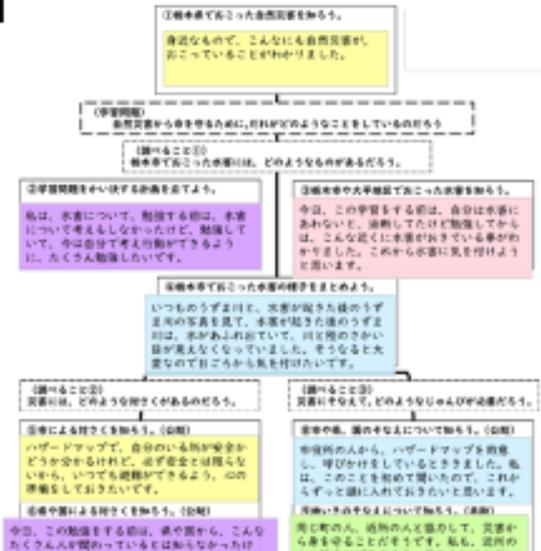
【1 単元構造図を活用した振り返り】

タブレット端末を用いて、
振り返りを可視化



児童
・単元の見直しをもつ
・これまでの学習を振り返る

指導者
・児童の思考の流れを確認
・次時の切り口を考える



研究の実際 4年生「自然災害からくらしを守る仕事」

研究の視点4 子供に寄り添う指導・評価の工夫

【2 子どもたちの実態に即した導入】

事前アンケートの結果
→水害への意識が低い
単元構造図を活用した振り返り
→児童の思考の流れ



・新聞記事
・ニュース映像
・災害の写真 などを活用



・自分事として捉える
・主体的に学びに向かう





研究の成果 4年生「自然災害から暮らしを守る仕事」

○単元を貫く学習問題を「自然災害から命を守るために、
私たちにどのようなことができるのだろう。」と設定



自然災害を自分事として捉え、
自ら選択・判断することへつなげることができた。

○国・県・市・地域などの災害への備えや
災害が起きたときの対応の理解



自分や家族でなければできないことを
タイムラインに落とし込む



災害への備えを主体的に考える



研究の成果 4年生「自然災害から暮らしを守る仕事」

○家庭との連携 ⇒ より深みのあるタイムラインの作成
保護者への啓発

○地域グループを編成 ⇒ 類似点や相違点を話し合う

- ・行動の意味を考えること
- ・避難のタイミングや避難経路が違うということ
- ・地域の地理的状况によって、避難のタイミングや方法が違うということ



研究の課題4年生「自然災害から暮らしを守る仕事」

▲課題

- ・災害に備え、小学生ができることはわずかな部分
- ・今回の学習で学んだことを発信する → 自分の家庭・地域
- ・社会への関わり方を選択・判断する力を育成できたのではないか。

□議論にあがったこと

- ・防災教育の目標…「命を守ること」
社会科教育の目標…「社会の中における様々な事象の関係性を理解し、社会に参画可能な公民的資質を醸成すること」
- ・社会科の学習で防災教育にどこまで踏み込むのか。
- ・社会科と総合的な学習の時間との関連





研究の実際 5年生「情報を生かして発展する産業」

5年生「情報を生かして発展する産業」 の実践を通して



研究の実際 5年生「情報を生かして発展する産業」

研究の視点1

育てたい力(資質・能力)を
身に付けるための教材開発

～児童が主体的に学びに向かうことが
できるような単元展開の工夫～

【研究内容】

- 1 情報活用と実生活の関連
- 2 情報の図式化



研究の実際 5年生「情報を生かして発展する産業」

研究の視点2

問いの構成・デザイン(構造化)の追究

～確かな社会認識をもたせ、
選択判断を促すための単元展開の工夫～

【研究内容】

- 1 単元を貫く学習問題の設定
- 2 事前アンケートを基にした問いの構成



研究の実際 5年生「情報を生かして発展する産業」

研究の視点2 問いの構成・デザイン(構造化)の追究

【1 単元を貫く学習問題の設定】

コンビニの店舗による
商品陳列の違い



情報を活用しているから
生まれてくる違い



単元を貫く学習問題の設定

「情報とわたしたちの生活は、
どのようにつながっているのだろう」

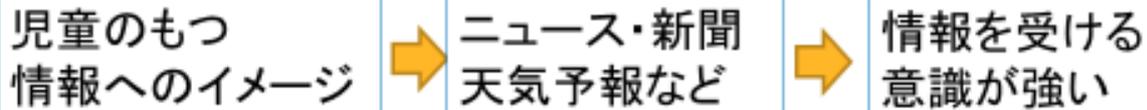




研究の実際 5年生「情報を生かして発展する産業」

研究の視点2 問いの構成・デザイン(構造化)の追究

【2 事前アンケートを基にした問いの設定】



児童にとって身近なコンビニエンスストアを入口として、
様々な産業の『情報を活用することの影響』に目を向けさせる

学習問題

- ①コンビニエンスストアでは、どのように情報を活用しているのだろう。
- ②産業が情報を活用することで、わたしたちの生活にどのような影響があるのだろう。



研究の実際 5年生「情報を生かして発展する産業」

研究の視点3

「仕掛け」としての学び合いの工夫

～地域における社会的事象を理解し、
社会への関わり方を選択判断するための工夫～

【研究内容】

- 1 学び合いに意味を
もたせるための発問の工夫
- 2 家庭との連携



研究の実際 5年生「情報を生かして発展する産業」

研究の視点3 仕掛けとしての学び合いの工夫

【1 学び合いに意味をもたせるための
発問の工夫】

- ・子供たちが、調べたこと・理解したことを話したいと思えるような声かけ
- ・資料を見る視点・話し合う視点を与える
- ・子供の発言から、なぜ(理由)を説明させるような問いかけ
- ・子供の意見をつなげる教師のコーディネートする力



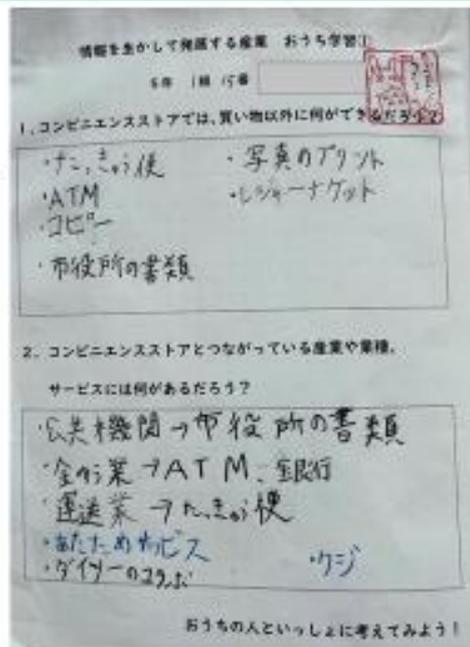
研究の実際 5年生「情報を生かして発展する産業」

研究の視点3 仕掛けとしての学び合いの工夫

【2 家庭との連携】

おうち学習の実施

- 第1時 コンビニでの情報活用
↓
【コンビニでできることを家の人と一緒に考える】
↓
第2時 情報を活用した
コンビニサービス
↓
第4時 商品がお店に並ぶまでの流れ
↓
【私たちの情報がどんなところで、
どのように使われているかを考える】
↓
第5時 情報活用の図式化





研究の実際 5年生「情報を生かして発展する産業」

研究の視点4

子供の実態に寄り添う指導・評価の工夫
～児童の振り返りを導入に生かす単元展開の工夫～

【研究内容】

- 1 子供たちの実態に即した導入
- 2 ふり返りシートの活用



研究の実際 5年生「情報を生かして発展する産業」

研究の視点4 子供の実態に寄り添う指導・評価の工夫

【1 子供たちの実態に即した導入】

人気TVアニメがプリントされた
お菓子やドリンク



児童の興味関心を高め、
社会的事象への見方・考え方を
働かせるきっかけに



「情報」を自分事として捉え、
主体的な学びにつながる





研究の実際 5年生「情報を生かして発展する産業」

研究の視点4 子供に寄り添う指導・評価の工夫

【2 ふり返しシートを活用】

ふり返しを1枚のシートに書きためていく

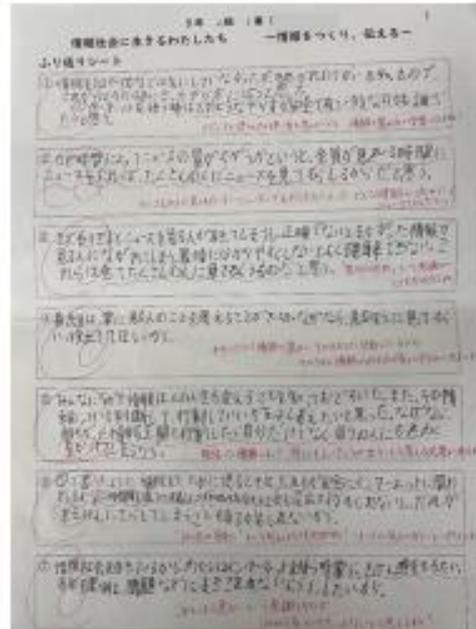


児童

- ・これまでの学習を振り返りやすい。
- ・単元の見通しがもちやすい。

指導者

- ・児童の思考の流れを確認できる。
- ・児童の考えの変容が見取りやすい。
- ・次時の切り口を考える。



研究の成果 5年生「情報を生かして発展する産業」

○情報を生かして発展する産業の取り掛かりとして
題材をコンビニエンスストアに設定

- ・児童にとって身近な題材を取り上げることで、
社会的事象への見方・考え方を働かせやすくなった。

○情報の流れの図式化

- ・目に見えにくい情報の流れを図式化することで、
産業側、消費者側への影響を考えることができた。

○意図的な対話的な学び

- ・おうち学習、グループでの話し合い、学級全体での話し合い
- ・おうち→グループ→全体と段階を踏んで、対話的な学びを行うことで「深い学び」につなげることができた。



研究の課題 5年生「情報を生かして発展する産業」

△社会科は単元学習であるので、本時の授業だけではなりたない。「単元を通して身に着ける力」、「本時で身に着ける力」を考えていくことが必要。

△「おうち学習」などを通して、家庭に頼る部分が大きかった。情報については、実生活で体験している部分があるが、目に見えにくいいため、実感しづらいことが多く、実生活との関連を気付きにくい。情報化社会の良さや課題が実感できるような取り組みが必要。

第4学年社会科学学習指導案

令和4年10月27日(木) 第5校時

指導者 第4学年2組 落合 安純

1 単元名 自然災害からくらしを守る仕事

2 単元について

(1) 学習指導要領の目標及び内容との関連

本単元は、学習指導要領(平成29年3月公示)第4学年の目標及び内容(3)のア(ア)及び(イ)とイ(ア)との関連の上に設定したものである。

第4学年の目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の通り資質能力を育成することを目指す。

- (1) 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

内容

- (3) 自然災害から人々を守る活動について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。

(イ) 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。

これらを受け、本単元では、栃木市と関連の深い水害を取り上げることとした。「社会的な見方・考え方」の「事象や人々の相互関係の視点」に着目させ、水害から人々を守る活動について、関係諸機関や地域の人々、ボランティア等が協力して水害に対処してきたことや、今後推定される水害について様々な備えをしていく必要があることを理解できるようにする。

(2) 単元の目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして図表や文などにまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

社会的事象等についての 知識・技能	社会的事象等についての 思考・判断・表現	社会的事象等について主体的に 学習に取り組む態度
① 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。	① 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見いだし、災害から人々を守る活動について考え表現している。	① 自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
② 国や県、地域の人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことについて調べたことを図表や文等にまとめたり、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解したりしている。	② 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などを関連付けて、その働きを考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	② 地域社会の一員として、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

(4) 単元構造図

栃木県で起こった自然災害を知る【第1時】

- ・栃木県では、いろいろな自然災害が起こっている。
 - ・災害は、自然のはたらきによって引き起こされる。
- ※栃木県での災害の映像

事前に水害に対するアンケートをとり、児童の問いや疑問と知識の結びつきに役立てる。

(単元を貫く学習問題)

自然災害から命を守るために、だれが、どのようなことをしているのだろう。

(学習問題①)

栃木市で起こった水害には、どのようなものがあるだろう。

学習問題を解決する計画を立てる【第2時】

- ・栃木県の水害の原因は、台風などの大雨によって川の水が急激にあふれることで、引き起こされる。
 - ・水害の影響や対策、備えについて調べる計画を立てる。
- ※栃木県での災害の映像

栃木市や大平地区で起こった水害の影響を知る【第3時】

- ・水害が起こると、多くの建物や道路が壊されてしまう。
 - ・電車が運行しなくなったり、道路が通れなくなったりして、生活に影響が出てしまう。
- ※栃木市や大平地区の水害の映像

栃木市で起こった水害の様子をまとめる【第4時】

- ・自然災害は、私たちの身近なところにも影響を与える。
 - ・災害に備えて、自分たちにもできることがある。
- ※栃木市や大平地区の水害の映像

(学習問題②)

災害には、どのような対策があるのだろう。

(学習問題③)

災害に備えて、どのような準備が必要だろう。

市による対策【第5時】公助

- ・市では、避難所を開設したり、情報を発信したりしている。
 - ・いろいろな機関と協力して、もとの生活にもどれるよう活動している。
- ※市役所危機管理課の方：インタビュー
新聞記事

県や国による対策【第6時】公助

- ・災害発生時には、県や国、他の市や町が協力して、もとの生活にもどれるよう働きかけている。
- ※自衛隊の活動の映像

地域による対策【第7時】共助

- ・自分も地域の一員として、消防団や地域のひとと協力して、安全な生活を守るために意識・行動することが大切である。
- ※市の広報誌、地域の活動の様子

市や県、国の備え【第8時】公助

- ・市では、防災ハザードマップを配り、水害に備えた取り組みをしている。
 - ・県や国では、リーフレットを作成したり、防災に関するガイドラインを決め直したりと、減災の取り組みをしている。
- ※栃木県逃げ遅れ防止啓発リーフレット

地域の備え【第9時】共助・自助

- ・避難訓練の実施や地域の人々と災害の対策について話し合うことが大切である。
 - ・災害が起きたときには、自助、共助、公助を上手に機能することが大切だが、自分の命は自分で守る行動や意識がより大切である。
- ※消防団の訓練の映像・インタビュー

自分たちのできる備え【第10・11時】自助

- ・災害に備えて、自分たちのできることを調べ、災害タイムラインにまとめる。
- ※学区の地図

災害について調べたことをまとめる【第12時】

- ・地域や家族構成によって、災害に備えた行動が異なる。
- ・水害だけではなく、他の災害でも備えをしていくことが大切である。

【総合的に捉えさせたいこと】

自然災害による被害の防災・減災のために、市や県、国の関係機関や地域の人々が連携して、様々な取り組みをしている。そして、日頃から防災・減災意識を高めることの大切さに気付かせるとともに、防災・減災のために、自分には何ができるのかを考え、行動していくことが大切である。

(5) 単元の指導計画 ※網掛けは評価したことを記録に残す場面

時	ねらい	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	資料	○評価規準・☆評価方法
1 2	栃木県で起こった自然災害について知り、学習問題を解決する計画を立てることができる。	○ 栃木県で起こった自然災害について知り、学習問題を解決する計画を立てる。 ・ 災害はどうして起こるのだろう。 ・ どのくらいの被害があったのかな。 ・ どうやって逃げるかな。	災害の映像 タブレット ワークシート	○ 栃木県で過去に発生した自然災害について知り、栃木市での水害に着目して、自然災害への問いを見いだしている。 【主体的に学習に取り組む態度①】 ☆ ノートの記述内容や発言から、「自然災害への取り組みについて、問いを見いだしているか」を評価する。
自然災害から命を守るために、だれが、どのようなことをしているのだろう。				
3 4	栃木市や大平地区で起こった水害の様子について理解することができる。	○ 栃木市や大平地区で起こった水害の様子について、映像やグラフや写真を使って調べる。 ・ 大雨が降ると道路や家が壊れるのだな。 ・ 雨が止んできたのに、川の水の量が増えているのはどうしてかな。 ・ 身近な地域でも被害が出ているのだな。	水害の映像 タブレット ワークシート	○ 栃木市や大平地区での被害を資料や映像から読み取り、水害における栃木市の被害状況を理解している。 【知識・技能①】 ☆ 映像やグラフ、写真から栃木市での被害を読み取り、栃木市の被害状況を理解することができたかを振り返りにまとめた言葉や発言から評価する。
5	水害が発生したときの市の働きについて調べることができる。	○ 水害が発生してから復旧するまでの市の働きについて調べる。 ・ 窓口を開いて相談にのってくれる。 ・ たくさんのゴミを片付けてくれている。 ・ 警察や消防とも協力し合っている。	市役所危機管理課の人の話 タブレット ワークシート	○ 水害が発生してから復旧するまでの市の働きについて考え、災害から人々を守る活動について表現している。【思考・判断・表現①】 ☆ 水害が発生してから復旧するまでの仕組みを資料や市の方の話から読み取り、様々な活動が行われていることを表現しているかについてワークシートにまとめた言葉から評価する。
6	水害が発生したときの県や国の働きに	○ 水害が発生してから復旧するまでの県や国の働きについて調べる。	自衛隊の活動の映像	○ 水害が発生してから復旧するまでの県や国の働きについて考え、災害から人々を守る活動について

	ついて調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国から自衛隊が手伝いに来てくれるのだな。 ・ 国と県とで取り組みが同じものがあるな。 ・ ダムの水を調節するのは県がする取り組みなのだ。 	タブレットワークシート	表現している。 【思考・判断・表現①】
7	水害が発生したときの地域の働きについて調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水害が発生してから復旧するまでの地域の働きについて調べる。 ・ 地域でも、自分たちができていることをしている。 ・ 消防団が活躍している。 ・ みんなが協力し合っているのだな。 	市の広報誌 地域の活動の写真 タブレットワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水害が発生してから復旧するまでの地域の働きについて考え、災害から人々を守る活動について表現している。 【思考・判断・表現①】
8	災害に備える市や県、国の働きを調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市や県、国が災害に備えてどんなことをしているか調べる。 ・ 県からのリーフレットで、災害が起きたときにどのように動けばよいか分かりやすい。 ・ 市の防災ハザードマップで、洪水や土砂災害の恐れがある場所が分かる。 	栃木県逃げ遅れ防止啓発リーフレット タブレットワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後想定される災害に対し、市や県、国が様々な備えをしていることを理解している。 【知識・技能②】 ☆ 被害を少なくする減災について、県や市、国がどのような取り組みをしているかを理解しているか、ノートの記述内容や付箋にまとめた言葉、発言から評価する。
9	災害に備える地域の働きについて調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害に備えて地域がしていることを調べる。 ・ 地域でも災害に備えるための活動が行われている。 ・ 地域にある避難場所を確認する。 	消防団の方の話 タブレットワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後想定される災害に対し、地域が様々な備えをしていることを理解している。 【知識・技能②】
10	災害に備えて自分たちができることについて調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害に備えて、自分たちができることを調べ、ワークシートにまとめる。 ・ どんな物を準備しておくとういかな。 	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習したことを基に災害への備えを選択・判断し、自分たちができること表現している。 【思考・判断・表現②】

	る。①	<ul style="list-style-type: none"> いつ逃げたらよいか。 どこに逃げようかな。 災害が起こる前にやるべきことは何か。 		
11 本時	災害に備えて自分たちができることについて調べることができる。②	<ul style="list-style-type: none"> ○ 居住地域ごとに災害タイムラインを比べることで、共通点や相違点を見つけ、自分の状況（地域や家族構成）に合った災害タイムラインにする。 ・ レベル3で避難することは同じだな。 ・ 避難場所が違っているな。 	前時までの学習資料 学区の地図 ワークシート タブレット	<ul style="list-style-type: none"> ○ 台風がもたらす災害から命や生活を守るために、自分たちができることを考え、ワークシート（災害タイムライン）に、自分や家族の行動を具体的に表現している。 <p>【思考・判断・表現②】</p> <p>☆ 災害に備えてできることを考え、時系列にそって自分がとるべき行動を考え、ワークシートに表現しているかを評価する。</p>
12	調べたことをまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習で分かったことや考えたことをまとめて、学習を振り返る。 ・ 国や県、市や地域の働きや自分たちができる備えについて知ることができた。 ・ 水害が起きる前に、うちでも対策をしたい。 ・ 家族に分かったことを伝えよう。 	前時までの学習資料 タブレット ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然災害からくらしを守るために必要なことを考え、学習したことを社会生活に役立てようとしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度②】</p> <p>☆ ノートの記述内容や付箋、発言から、災害対策について自分たちができることを考えているかを評価する。</p>

3 指導に当たって

(1) 教材観

本単元では、自然災害の防止と我々の生活とのかかわりを取り上げ、災害発生時の「対処」発生する前の「備え」を追求していく。我が国は世界的に見ても、自然災害の多発地域である。豊かな自然環境がもたらす恩恵に多くの産業が支えられる一方、地震や津波、風水害、土砂災害、雪害、火山災害などの様々な種類の自然災害が多発する。地震や豪雨、台風などといった災害をもたらす自然現象そのものを止めることはできない。しかし、これらの現象によって被害が及ぶのを防ぐための防災や被害をできるだけ少なくする減災のために、様々な取り組みがいたるところで行われている。また、日ごろから防災意識を高めることの大切さに気付かせるとともに、自らも自然災害の被害を防ぐためにどのようなことを考え、どのように行動すべきなのかを考えさせることができる単元である。

(2) 児童観

本学級の児童は、明るく素直な児童が多い。また、好奇心が強く、積極的な発言やつぶやきが多い。

しかし、全体での発表を苦手とする児童も多い。話し合い活動が徐々に行えるようになり、児童は話し合い活動に対して関心をもちながら取り組んでいる。しかし、経験が不足していることもあり、課題に対して少人数で話し合い、意見をまとめていくことにまだ不慣れなところもある。

本校のある栃木市では、2015年・2019年と立て続けに水害に見舞われている。特に、2019年の台風19号では、栃木市を流れる永野川が氾濫し、大平町も甚大な被害を受けた。近隣の小学校や普段買い物に行っているスーパーマーケットなどが被災した。しかし、被災したことは知っていても、当時の被災した様子や、復旧に至るまで、誰がどのようなことをしていたかを知る児童は少ない。

児童の課題としては、自然災害が起きたときに、「どのようにして災害から復旧し現在の生活に至っているのか」や「災害が起きたとき、どのような機関が連携しているのか」、「災害に備え、どのような取り組みが行われているのか」などについては、関心が低く、自分事として捉えられていないということが挙げられる。そのため、児童の主体的な学びにつながるよう地域教材を活用し、社会的な見方・考え方を働かせられるようにしていきたい。

(3) 指導観

近年では、毎年のように全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生している。2021年でも、熱海市での豪雨や土砂災害が発生し、甚大な被害が出ている。自然災害が多発していることについては、新聞やニュースの報道により、知っている児童が多いが、「テレビの中の世界」だと認識している児童も多い。

そこで、本単元では、これまでの自然災害に関する資料や映像から、児童が主体的に学びに向かうことができるような問題提起を軸にし、いつ起こるか分からない自然災害を自分事として捉え、社会的事象への見方・考え方を働かせ、児童が自分たちの課題を主体的に解決していく学習を展開していきたい。

もし、災害が発生したときには、国や県、市町村などの協力のもとで、被災者の救助や避難所の設置、食品・飲料水や生活用品の支給といった支援が行われる。被災した人々だけでは、救助や復旧が困難なため、地域の消防団や警察だけでなく、他の地域からも多くの消防隊や警察、自衛隊などの人々が被災地に派遣される。そのような関係機関の連携（公助）を理解することや、自分自身や家族を守ること（自助）、住民同士が協力して行うこと（共助）を理解できるようにする。その上で、自分自身の住んでいる地域では、どのような災害が起こりやすいのかを把握することや、そのためにどのような行動をとるべきかについて正しく選択・判断できるようにしていきたい。そして、単元を通して児童が選択・判断したことをもとに、説明したり議論したりする表現力を高めるような授業を展開していきたい。

(4) 研究主題との関連

本校の研究主題は、「ふるさとに誇りをもち、ともに夢に向かってたくましく生きる児童の育成」とし、進んで社会に関ろうとする子どもを育てる社会科学習を目指し、研究を進めている。また、目指す子ども像として、「社会的事象の研究を通して社会の仕組みが分かり、確かな社会認識をもつことができる子ども」「社会の一員として、様々な人々と進んで連携・協力しようとする子ども」の育成を掲げている。

① 育てたい力（資質・能力）を身に付けるための教材開発

「わたしたちの栃木市」の写真や図と共に、災害の様子や防災のための取り組みについて、音声の付いた実際の映像や画像で確認させることにより、児童の水害に対しての興味・関心や危機意識を高められるようにしていきたい。また、身近に起こる災害に備えて、関係諸機関のはたらきを知ったうえで、自分たちにできる行動を選択・判断する力を育むために、災害タイムラインやを活用し、説明したり議論したりする授業を展開していきたい。また、ハザードマップを取り入れることで、市が災害に備えてどのような取り組みをしているのか、自分たちが住む地域にはどの程度の災害の危険性があるのかを確認していきたい。

② 問いの構成・デザイン（構造化）の追究

単元を貫く学習問題として、「自然災害から命を守るために、だれが、どのようなことをしているのだろう。」という問いを立て、それを軸に単元全体を構成していく。また、単元を通じた学びの中で常に選択・判断を問う発問（「どちらがよいのだろう」「自分には何ができるだろう」「今はまずこうしていきたい」）を投げ掛け、積み重ねていく。また、関係諸機関の方の話聞くことを通して、関係諸機関や地域の人々が何をしているか知ったうえで、それらの機関の働きと自分の行動が一体化すること、実際の状況に応じて行動することの重要性について考えさせるようにしたい。そして、地域社会への確かな認識をもたせ、自ら選択・判断できるような主体的で対話的な学びにつなげていきたい。単元のまとめには、「自分にとって災害タイムラインは、どのようなものであるか」という問いを投げ掛け、地域社会の一員としての思考力や判断力を身に付けさせたい。

③ 「仕掛け」としての学び合いの工夫

災害タイムラインの作成時には、学習したことや家庭で聞いたこと、同じ地区の友達と話し合うことを通して、児童が多角的に考え、多様な価値観を養うことができるようにしたい。また、ICTを活用し、調べた情報・自分の考えの共有や災害タイムラインの作成に役立てたい。また、授業内に自分で作成した災害タイムラインを家庭に持ち帰り、準備する物や避難のタイミングなどを話し合ってもらうことで、災害タイムラインの完成度を高め、地域別話し合いに役立てたい。

④ 子どもの実態に寄りそう指導・評価の工夫

事前に児童に対して水害に関するアンケートをとり、児童の実態を把握することで、授業展開に役立てたい。また、学習して気付いたこと、分かったこと、自分だったらどうするか等について、学習の流れが分かるワークシートにためていく活動を通して、児童の思考過程をたどり、どのような選択・判断をしたのかを視覚化していきたい。さらに、学習してきたことを一目で確認し、これから学習することへの見通しをもたせるために単元構想図を活用する。そして、タブレット端末を活用して授業の振り返りを記録し、可視化する。単元構想図を用いた振り返りを行うことにより、子どもの思考の流れを確認し、授業の導入における切り口を考え直すといった指導者の授業改善に役立てたい。

4 人権教育との関連

本単元では、自分の考えを表現したり友達の考えに触れたりする活動をとおして、互いに認め合い、主体的に問題を解決することができる児童を育てたい。 (実践力)

5 本時の学習（11／12時）

(1) 題目 台風から身を守るために、より良い災害タイムラインを作ろう。

(2) 本時の目標

台風がもたらす災害から身を守るために、自分たちにできることを考え、ワークシート（災害タイムライン）に、自分や家族の行動を具体的に表現することができる。

【社会的事象についての思考・判断・表現】

(3) 人権教育の視点

災害タイムラインを作る活動を通して、自分の考えを表現したり、友達の意見に触れたりして、それぞれの考えのよさを認めることができる。 (感受性)

(4) 生かしたい児童

児童A：物事を前向きに捉えられ、発言力がある児童である。また、家庭で災害について話す機会も多く、災害に対する予備知識も豊富である。本児の考えを取り上げることで、学級全体が自然災害を自分事として捉えられるようにしたい。

児童B：社会的事象に興味関心を抱いているが、自分の意見や考えを頭の中で整理することに難しさを感じていて、相手に言葉で伝えることが苦手である。教師が考えに対して詳しく尋ねていくことで、伝えたいことを整理し、本児がもつ社会的事象に対する興味関心を生かしていきたい。

(5) 展開

☆研究主題との関連 ◎人権教育上の配慮

時間	学習活動 ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点	資料
5	1 栃木市に災害が発生した時の関係機関の働きや防災のための取り組みについて振り返り、本時のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習の方向性を見通すことができるように、本時に関連する内容を中心に前時までの学習を振り返る。 本時のめあてを明確に示し、児童の意欲を引き出すようにする。 	前時までの学習資料
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 台風から身を守るために、より良い災害タイムラインを作ろう。 </div>		
15	2 各自が家庭で考えたことをグループで共有し、共通点や相違点、その理由を見つけ、発表する。 <共通点> ・ レベル3の時に避難している。 <相違点> ・ 避難場所が違って	<ul style="list-style-type: none"> 近くに住む友達同士でグループを作り、自分たちが住む状況に合わせた行動について考えさせる。 ◎ 必要な物やとるべき行動は、人や家庭によって様々であり、必要な物や行動を行うタイミングも様々であることを確認させる。 ☆ 自分たちが住む地域の状況や家族構成に合わせた行動について考えさせ、その行動が必要な理由を説明させることで、その行動の大切さや必要性に気付かせる。 	ワークシート タブレット

	<p>る。(小学校や公民館) <理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤ちゃんがいる家では、早めに避難している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相違点を中心に話し合わせることで、家族構成の違いによって、避難行動に違いが出ることに気付かせる。 	
10	<p>3 他の地域の避難の様子を聞いて、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川が近い地域は避難のタイミングが早い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が住む地域以外の備えの様子について考えることで、住む地域によって避難行動に違いが出ることに気付かせる。 	学区の地図
10	<p>4 グループで共有したことをもとに個人で考え、タイムラインをさらに詳しくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ うちには祖父母がいるから早めに避難しよう ・ 避難所に市の人がかかるまで水がなさそうだから、水は持っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで共有したことを参考に、水害から身を守るためにできることをタイムラインに記入させていく。 ・ 参考にした友達の考えをそのまま取り入れるのではなく、自分の住む地域や家庭の実情に合わせて見直させ、オリジナルのタイムラインが作れるようにする。 	
<p>評価 台風がもたらす災害から命や生活を守るために、自分たちにできることを考え、ワークシート（災害タイムライン）に、自分や家族の行動を具体的に表現している。</p> <p style="text-align: right;">【社会的事象等についての思考・判断・表現】</p> <p>【おおむね満足できる状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にできることを考え、時系列でまとめていくことで、台風がもたらす災害に対して自分たちがとるべきよりよい行動について考え表現している。 <p>【十分満足できる状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にできることを考え、時系列でまとめていくことで、台風がもたらす災害に対して自分たちがとるべきよりよい行動について、関係機関から出ている情報を参考に、理由を明確にしながら表現している。 <p>【おおむね満足できる状況に達していない児童への支援や手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話合いで出た意見や、これまで学習してきた関係機関と地域の働きを前時までの学習資料で想起させるようにする。 			
5	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もう一度家の人と見直してみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイムラインは、あくまで行動の目安となるものであり、実際の状況に応じて、行動することが大切であることを確認させる。 ・ 本時の振り返りを行うと共に、次時の予告を行う。 	

		<ul style="list-style-type: none">・ 作成した災害タイムラインは家庭に持ち帰り，もう一度家の人とともに確認させる。・ 総合的な学習で本時で作成した災害タイムラインを使うことを予告する。	
--	--	--	--

第5学年 社会科学習指導案

令和4年10月27日(木) 第4校時

指導者 第5学年2組 福地 雅大

1 単元名 情報を生かして発展する産業

2 単元について

(1) 学習指導要領の内容との関連

本単元は、学習指導要領(平成29年3月公示)第5学年目標及び内容(4)のイ及びイ(イ)との関連の上に設定したものである。

第5学年の目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

内容

- (4) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。
 - (イ) 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。
 - (ウ) 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
 - (イ) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

これらを受け、本単元では、コンビニエンスストアの情報活用について取り上げることにした。「社会科的な見方・考え方」の「事象や人々の相互関係の視点」に着目させ、産業における情報活用が、わたしたちの生活を向上していることに気付かせていきたい。

(2) 単元の目標

我が国の産業と情報の関わりについて、情報を集め発信するまでの工夫や努力、情報の種類、活用の仕方などに着目して、聞き取り調査をしたり、映像や新聞などの資料から適切に情報を読み取ったりして、情報活用の様子などを図表などにまとめ、産業における情報活用の現状を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、大量の情報や通信技術の活用は、様々な産業を発展させ国民生活を向上させていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追及・解決し、情報と販売業の関わり、国民生活との関わりなど学習したことを基に社会生活に生かそうとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

社会的事象等についての 知識・技能	社会的事象等についての 思考・判断・表現	社会的事象等について 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 聞き取り調査を行ったり、書籍やインターネット等を活用したりして、販売業における情報活用について必要な情報を集め、調べたことを関係図にまとめている。</p> <p>② 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。</p>	<p>① 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、問いを見出し、産業における情報活用の現状について考え、表現している。</p> <p>② 情報を活用した産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え適切に表現している。</p>	<p>① 販売業における情報活用について、問題意識をもちながら人と関わったり、各種資料で調べたりと、意欲的に追及している。</p> <p>② その他の産業における情報活用に目を向け、自分なりに疑問や問題意識をもち、調べている。</p>

(4) 単元構造図

販売業がだれのために商品売っているのかを考える【第1時】

- ・コンビニエンスストアで人気なアニメ等とコラボ商品を出しているのは何のためかを考える。
- ・コンビニエンスストアの情報活用が自分たちの生活にどう関わるのか、という視点から学習問題を立てる。

(単元を貫く学習課題)
情報とわたしたちの生活は、どのようにつながっているのだろう。

(学習問題①)
コンビニエンスストアでは、情報をどのように活用しているのだろう。

コンビニエンスストアの情報を活用したサービスについて知る【第2時】

- ・コンビニエンスストアにはどのようなサービスがあるかを調べる。
- ・情報を利用して、サービスが利用できることを知る。

コンビニエンスストアが集め、活用する情報について知る【第3時】

- ・コンビニエンスストアと本社のつながりを知る。
- ・様々な情報から、仕入れる商品の種類や個数を決めていることを知る。

商品が店に並ぶまでの情報の流れを図にまとめる【第4時】

- ・本社が様々な業種と情報を共有していることを図にまとめる。
- ・本社の役割を考え、コンビニエンスストアの情報活用について知る。

(学習問題②)
産業が情報を活用することで、わたしたちの生活にどのような影響があるのだろう。

各産業では、私たちの情報がどのように活用されているのかを考える【第5時】

- ・自分の情報が社会のどのような場面で活用されているかを図で表す。
- ・自分の情報が活用される良さを考える。

産業同士では、どのように情報をつなげているのかを知る【第6時】

- ・産業同士が、どのような情報をどのように活用しているかを調べる。
- ・産業同士が情報を活用することで、自分の生活にどのように役立っているのかを考える。

産業が情報を活用することの良さや課題を考える【第7時】

- ・わたしたちの生活が便利になる良さや、個人情報流出等の課題があることを知る。
- ・自分がどのように社会や情報と関わっていくのかを考える。

【総合的に捉えさせたいこと】
大量の情報や通信技術の活用は、産業を発展させ、それにより私たちの生活が便利になっている。しかし、個人情報の流出や悪用など、危険なこともあるため、情報を扱うときには、ルールやマナーを守る必要がある。

(5) 単元の指導計画 ※網掛けは評価したことを記録に残す場面

時	ねらい	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	資料	○評価規準・☆評価方法
1	コンビニエンスストアで人気なアニメ等とコラボ商品を出しているのは何のためかを考え、学習問題を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンビニエンスストアで人気なアニメ等とコラボ商品を出しているのは何のためかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたち（消費者）のため。 ・コンビニのため。 ・コラボ元の会社のため。 ○ コンビニエンスストアの情報活用が自分たちの生活にどう関わるのか、という視点から学習課題を立てる。 ○ 学習問題を解決するために、調べる計画を立てる。 	写真 振り返りシート	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、問いを見出している。 【思考・判断・表現①】 ☆ 発言内容やノートの記述内容から、「コンビニエンスストアでは、情報が必要であることに気づき、それらの良さについて考えているか」を評価する。
情報とわたしたちの生活は、どのようにつながっているのだろう。				
2	コンビニエンスストアでは、どのようなサービスがあるのか、調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンビニエンスストアにどのようなサービスがあるか、インターネットで調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・コピーができる。 ・振り込みができる。 ・ATMでお金がおろせる。 ○ サービスが利用できるしくみについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・他の会社とつながっているから。 ・産業との関わりがあるから。 	振り返りシート	<ul style="list-style-type: none"> ○ 販売業における情報活用について、意欲的に調べている。 【主体的に学習に取り組む態度①】 ☆ ノートの記述内容から、「コンビニエンスストアでは、どのようなサービスがあるか調べることができるか」を評価する。
3	コンビニエンスストアでは、どのような情報を集めているかを知ることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分がコンビニエンスストアの店長になったらという視点から、商品を仕入れる時に、どのような情報をもとに、商品の数や種類を決めるかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・お店の人気の商品のデータから。 ・買いに来た人の年齢から。 ・天気や地域の情報から。 ・行事から。 ・過去のデータから。 	振り返りシート	<ul style="list-style-type: none"> ○販売業での情報活用の仕方について理解している。【知識・技能①】 ☆ ノートの記述内容から「コンビニでたくさんの情報を活用していることを理解できているか」を評価する。

4	<p>調べたことから、商品が店に並ぶまでの情報の流れについて、図にまとめることができるようにする。</p>	<p>○ 本社がなかったらという視点から、本社の役割を考え、本社がいろいろな業種と情報を共有している様子を図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本社が工場・配送センターに情報を伝えている。 ・本社が他のお店の情報も集めて、商品開発などに生かしている。 	<p>振り返りシート</p>	<p>○ 販売業における情報活用について集めた情報をもとに、情報の流れを関係図にまとめている。【知識・技能①】</p>
5 (本時)	<p>各産業でわたしたちの情報がどのように使われているのかを考え、図に表し、消費者の情報が活用される良さをまとめることができるようにする。</p>	<p>○ 自分の情報が社会のどのような場面で活用されているかを図で表す。自分の情報が活用される良さについて、多角的に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院では、今までにかかった病気を記録することができ、これからの治療に活かせる。 ・観光では、ホテルの予約情報や検索情報から、おすすめの観光地を提案してくれる。 ・YouTube では、好みに合わせて動画を提案してくれる。 	<p>前時までの掲示物 ワークシート 振り返りシート</p>	<p>○ 産業が情報を活用することで、自分たちの生活が向上していることを、自分の言葉で表現している。</p> <p>【思考・判断・表現②】</p> <p>☆ ノートの記述内容から、「産業が大量の情報や情報通信技術を活用することによって、自分たちの生活に果たす役割について、多角的に考え、記述できているか」を評価する。</p>
6	<p>産業同士のつながりに着目し、それぞれが情報を活用する良さについて、考えることができるようにする。</p>	<p>○ 産業同士では、どのような情報をどのように活用しているか調べ、わたしたちの生活にどのように役立っているか考え、表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニと銀行がつながり、身近なところでお金をおろすことができる。 ・学校と病院がつながり、何かあった時に連絡がとれるようにする。 ・SNS と観光業がつながり、口コミなどでお客さんが集まるようになる。 	<p>振り返りシート</p>	<p>○ 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。【知識・技能②】</p> <p>☆ ノートの記述内容から「各産業での情報活用が、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解しているか」を評価する。</p>

7	産業が情報を活用することの良さと課題から、自分がどのように社会と関わっていくか、考え表現できるようにする。	○ 産業が情報を活用することの良さと課題をもとに、どのように関わっていくかを考え、まとめる。 ・産業が情報を使うことで、私たちの生活は便利になる。 ・産業がわたしたちの情報を集めることで、個人情報が出回る可能性が高くなる。	振り返りシート	○ 各産業における情報活用に目を向け、自分なりの疑問や問題意識をもち、社会や情報とどう関わっていくかを意欲的に考えている。 【主体的に学習に取り組む態度②】 ☆ 発言内容やノートの記事内容から「情報化社会の良さや課題をもとに、これからの自分の生き方について記述できているか」を評価する。
---	---	---	---------	---

3 指導に当たって

(1) 教材観

本単元では、産業における情報通信技術の活用について追究していく。昨今は情報通信技術の発展がめまぐるしく、国民生活や産業にとって、情報はなくてはならないものとなっている。各産業は、メディアから発信された情報や天気情報、顧客情報などの多様で大量な情報を収集、分析し、活用することで、発展している。そして、販売業や運輸業がつながることでよりよいサービスが生まれ、国民に提供され、国民の生活はより便利になる。このような情報を活用することによる産業の発展と国民生活の利便性の向上の関連について、理解を深めていく。

国民は、SNS などを利用し、自らの思いや様々な情報を発信することができる。産業は、SNS などから発信された情報をもとに、消費者が感じていることや社会の流行などの情報を収集している。しかし、消費者は、産業に情報を提供しているという意識はない。産業が、インターネットにある消費者の情報を収集・分析しているという現状を理解させる。また、産業は、顧客情報や自社が提供するポイントカードやアプリを通して、情報を集めている。消費者は、クーポン券や新商品など、有益な情報を得ることができるため、それらを活用する。産業は、消費者のそれぞれの購入情報や個人情報を収集・分析し、それらを販売、経営に役立てる。そして、産業は、消費者のニーズに合わせたサービスを提供し、消費者はそのサービスを受ける。このように、産業は消費者が意図なく発信した情報も活用し、よりよいサービスを提供している。情報通信技術を活用した産業の発展には、消費者が発信する情報も大きく関わっていることも理解させていく。情報の流れを可視化し、情報活用の現状を捉え、双方向の情報の活用の良さについて、多角的に考えていく。

情報通信技術の発展により、国民生活が便利になる一方、自他の個人情報の取り扱いやシステム障害の影響など、情報化社会の課題もある。タブレット端末が支給され、学習に生かすことが増えたことで、児童にとって、接続障害などの情報化社会の課題は身近になっている。児童の経験を交

えながら、情報化社会の良さや課題について触れていく。そして、自らが情報化社会とどのように関わっていくかを考えさせていきたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、明るく素直な児童が多い。興味・関心が高い事柄に対しては、意欲的に取り組んでいる。しかし、興味・関心の低い事柄に対して、自分から進んで追究しようという気持ちが弱い。難しい課題を解決するために根気強く取り組むことを苦手とする児童が多い。

また、少人数のグループでは、自分と似ているところや異なるところに注目して友達の話聞き、自分の考えと比較して発言できるようになっている。しかし、クラス全体では、自分の発信することには消極的な児童も見られる。

アンケートの結果から、社会科が好きな児童は、学級の約半分であると分かった。社会科の学習の好きなところについて、今社会で起きていることや、自分の知らなかったことが知ることを楽しんでいる児童が多い。一方、社会科は、覚えるべき事項が多く、重要語句の意味を理解することが難しいと感じている。

米作りや水産業の単元では、自分の生活に身近なものの生産過程や生産者の工夫や苦勞について学習してきた。それらをもとにこれから自分がどのように関わっていくかを考え、表現した。そのような経験を生かし、児童が知らないことを知ることができ、自分がどうするかを考えられるよう、展開していく。

また、児童はコンビニエンスストアを、買い物をするときに利用している。少しだけ買い物をするときや家族で遠くに出かけるとき、友達と遊ぶときに利用していることが分かった。欲しいものが何でも売っていること、家の近くに行くつもあり、すぐに行けることをコンビニエンスストアの良さと捉えている。しかし、情報通信技術を活用したコンビニエンスストアの様々な機能を利用したり、知っていたりする児童は少なかった。

このことから、本単元では、児童にとって身近なコンビニエンスストアを取り上げ、学習していく。児童が知らないコンビニエンスストアの幅広いサービスや、店内での活用方法、普段知ることのできない商品が並ぶまでのしくみについて調べていく。また、自分の生活に結び付けて考えることができるよう、情報の流れを可視化したり、自分事として捉えられるような発問をしたりしていく。そして一人一人が学習に主体的に取り組めるよう、写真や動画教材の示し方を工夫し、興味・関心を高める工夫をしていく。また、コンビニエンスストアだけではなく、他の産業でも情報の視点で多角的に考えながら、自分事として情報活用の良さを捉えさせていきたい。そして、単元を通して、産業と自分の生活のつながりについて考え、自分の考えを表現する力を養っていきたい。

(3) 指導観

本単元では、児童の社会的事象を身近に感じながら追究できるよう、販売業の中でも、コンビニエンスストアを取り上げた。社会的事象への見方・考え方を働かせ、社会的事象に自ら関わっていけるような学習を展開し、児童の関心をさらに深めていけるような教材の提示を工夫していきたい。

児童は、様々なメディアから、自分に役に立つ情報を得られることは理解している。情報を受信しているという意識をもっているであろう。しかし、自分たちが情報の発信源になっていることを

意識していないが、産業は消費者から発信された情報を活用している。また、様々な機関とネットワークでつながっていることで、コンビニエンスストアがよりよいサービスを提供していることを知らないだろう。

そこで、自分がコンビニエンスストアを利用するときに見たり感じたりすることのできない情報の流れについて、理解を深めさせたい。まず、コンビニエンスストアでは、情報が欠かせないものであることを気付かせる。その情報の種類や活用方法について、コンビニエンスストアの店長へのインタビュー動画や本、インターネットを通して調べる。調べたことをもとに、情報の流れを図式化する。図式化することを通して、各店舗と本社や運送会社、工場などの様々な産業が繋がっていることを実感させる。また、レジやポイントカード、アプリを通して、利用者の顧客情報や購入情報などが産業に伝えられる。それらの情報をもとに、新しい商品が開発されたり、消費者の好みに合わせた商品が販売されたりしていることを理解させる。瞬時に自分自身に利益がもたらされるのではないが、時間をかけて自分に還元される。情報が幅広く繋がることによって、産業のサービスを向上させ、自分たちの生活を便利にしている。そして、利用する消費者が増え、さらに産業が発展していく。このように産業側や消費者側が情報を活用する良さを多角的に考えさせたい。

また、コンビニエンスストアなどの販売業だけでなく、運輸、福祉、観光、医療などの産業でも、幅広いところから情報を収集し、分析、活用することによってサービスを向上させ、国民生活を便利にしていることを捉えさせたい。また、他の産業にも視野を広げ、どの産業でも情報通信技術の活用をしているということも押さえる。

このように、産業が情報を活用しながら発展しているとともに、その発展が自分たちの生活の利便性を高めていることを実感させていきたい。

(4) 研究主題との関連

本校の研究主題は、「ふるさとに誇りをもち、ともに夢に向かってたくましく生きる児童の育成」とし、進んで社会に関わろうとする子どもを育てる社会科学習を目指し、研究を進めている。また、目指す子ども像として、「社会的事象の研究を通して社会の仕組みが分かり、確かな社会認識をもつことができる子ども」「社会の一員として、様々な人々と進んで連携・協力しようとする子ども」の育成を掲げている。

① 育てたい力（資質・能力）を身に付けるための教材開発

本小単元では、社会的事象の見方・考え方の「事象や人々との相互関係」に着目し、産業での情報活用が、自分たちの生活にどのような影響や関連があるかを考えさせている。

コンビニエンスストアで情報を活用していることの一例として、実際の店舗の写真をいくつか提示し、比較させ、同じコンビニエンスストアでも、商品陳列や発注個数などの違いがあることに気付かせ、その違いは、情報を活用した結果であることに着目させていきたい。また、コンビニエンスストアで働く人の話を聞く活動から、情報活用の現状を捉えさせる。コンビニエンスストアの店舗と本部、運輸、様々な産業が情報を活用して繋がっている様子を図式化させる。コンビニエンスストアや他産業での情報活用の良さを、産業側と消費者側に立ち、多角的に考えさせ、産業が様々な情報を活用し、サービスを向上させていること、人々の生活を便利にさせていることを捉えさせたい。

② 問いの構成・デザイン（構造化）の追究

本小単元では、単元を貫く学習問題として、「情報とわたしたちの生活は、どのようにつながっているのだろう。」という問いを立て、それを軸に単元を構成していく。毎時間の問いを明確にし、「産業は大量の情報や情報通信技術を活用することで、産業を発展させ、私たちの生活を向上させている」ということを総合的に捉えさせていく。

「どのような情報を集めているか」「どこへ情報を伝えているのだろう」「情報をどのようにいかしているのだろう」と問いを積み重ねていき、知識を広げ、考えを深めていく。単元の後半では、「情報がつながる良さは何だろう」と問い、学習したことを基に、販売者側と消費者側に立って考えさせる。販売業が情報を活用することで、消費者が求めるサービスを提供できること、仕事の効率化ができ、売り上げの向上を図れること、など情報を活用することの意義を自分の言葉で表現させたい。

③ 「仕掛け」としての学び合いの工夫

情報とわたしたちの生活のつながりについて、学習したことや自分の経験をもとに、産業側と消費者側に立って考えていく。そのときに、コンビニエンスストアだけではなく他産業での情報活用に焦点を当て、自分の情報がどのようにつながっていくかを考えていく。友達と話し合いながら、考えを深め、図に表していく。また、資料を使って、産業と消費者のつながりを気付かせ、それぞれの産業が情報で繋がることの良さを、産業側と消費者側に立って考えていく。そうすることで、多くの産業が、情報を活用し発展していくとともに、自分たちの生活がより便利で豊かなものになっていくことを自分事として考えることができるであろう。

④ 児童の実態に寄りそう指導・評価の工夫

単元を通して、情報というキーワードを使って、振り返りを書かせる。産業が情報を活用しているということを、毎時間意識させ、本時の学習で考えたこと、自分の生活に生かしたいことを、学習の流れが分かるようにワークシートに書き溜めていく。社会的事象と人々の相互関係について考える力を養うために、児童の生活に結びつくような授業を展開していきたい。

4 人権教育との関連

本単元では、互いに考えを伝えあって協力し、相手とのちがいを意識しながら、わかりやすい言葉や文章で自分の気持ちや考えを表現することができる児童を育てたい。 (技能)

5 本時の学習（5／7）

(1) 題目 わたしたちの情報がどのように活用されているのか考えよう

(2) 本時の目標

産業と消費者の立場から多角的に考えて、産業が情報を活用することで、自分たちの生活が向上していることを、自分の言葉でまとめることができる。 【思考・判断・表現】

(3) 人権教育の視点

相手の考えとの違いを意識しながら、分かりやすい言葉や文章で自分の気持ちや考えを表現することができる。 【技能】

(4) 生かしたい児童

児童A：社会への関心が高く、社会的事象に関して、様々な視点から物事を考え、文章で表現することができる。しかし、進んで発言する場面が少ない。教師が本児の考えを称賛し、発言する機会を与えることで、自信をつけさせるとともに、本児の考えをクラス全体でも共有させたい。

児童B：どの授業でも、積極的に取り組んでいる。また、自分の意見を持ち、少人数や学級全体でも発言することができる。しかし、友達の意見を受容することができず、対立してしまう場面がある。自分の考えと比較しながら、友達の意見との共通点や相違点に気付かせ、自分もっていなかった考えを受け入れることができるようにしたい。

(5) 展開 ☆研究主題との関連 ◎人権教育上の配慮

時間	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点	資料等
3	1 コンビニエンスストアでは、自分の情報がどのように活用されていたのかを振り返る。	・ 前時までの掲示物を見せることで、情報の流れについて振り返ることができるようにする。	既習事項の資料
2	2 本時のめあてを確認する。	・ 本時のめあてを明確に示し、児童の意欲を引き出すようにする。	
わたしたちの情報がどのように活用され、どのような影響があるのか考えよう。			
10	3 事前に家庭で聞いてきたことをもとに、自分たちの情報がどのような場所で使われているのかを図に表す。	・ 事前に家庭で個人情報を活用する場面について聞くことで、考えを出やすくする。 ☆ 始めにコンビニエンスストアの情報活用について、活動の流れを確認しながら図を作らせることで、図の表し方が理解できるようにする。	ワークシート

15	<p>4 個人で考えたことをもとに、グループで話し合い、新たな考えを書き足す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい情報活用を見つけたら、図を書き足させる活動をすることで、視野を広げることができるようにする。 ・ 新しい考えを青で書くことで、自分の考えの広がりを実感的に実感できるようにする。 <p>☆ 机間指導をし、話し合いが進んでいないグループには、もし～がなかったらという声掛けをして、考えさせる。</p> <p>◎ 相手の考えとの違いを意識しながら、話し合うことができる。</p>	
10	<p>5 様々な産業でわたしたちの情報が活用されることの良さについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院では、今までにかかった病気を記録することができ、これからの治療に活かせる。 ・ 観光では、ホテルの予約情報や検索情報から、おすすめの観光地を提案してくれる。 ・ YouTubeでは、好みに合わせて動画を提案してくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ その場面を想像させることで、自分事として考えられるようにする。 ・ 考えることが難しい児童に対しては、教師から視点を与え、どんな情報を使うと、どんな良いことがあるか、順を追って考えさせることで、場面を想像しやすくする。 <p>☆ 消費者側、産業側のどちらの立場からも考えられるようにすることで、消費者だけの利益ではないことに気付かせる。</p>	

評価 産業が情報を活用することで、自分たちの生活が向上していることを、自分の言葉で表現している。 【社会的事象等についての思考・判断・表現】

【十分満足できる状況】

- ・ 産業が情報を活用することは、消費者にとってどのような良さがあるのかを考え、情報が幅広く広がっていることに気づき、明確に表現している。

【おおむね満足できる状況】

- ・ 産業が情報を活用することは、消費者にとってどのような良さがあるのかを考え、表現している。

【おおむね満足できる状況に達していない児童への支援や手立て】

- ・ 具体的な活用例を想起させることで、情報の流れを捉えさせ、消費者にとっての良さを考えられるようにする。

5	<p>6 次時の予告を聞き，本時の学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の情報はたくさんのお店や施設で使われている。 ・お店や施設は情報を活用することでわたしたちにとって便利なサービスをしてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時に産業同士のつながりを学習することを伝えることで，振り返りに次時の予想についても書けるようにする。 <p>☆ 情報を活用することの良さについて，分かったことを情報というキーワードを使って書かせることで，情報活用を自分事として考えられるようにする。</p>	振り返りシート
---	---	---	---------

memo



※ 本大会についてのアンケートを実施しますのでご協力ください。以下の URL 又は QR コードから GoogleForms にアクセスして回答してください。

【https://docs.google.com/forms/d/1D-NOi52-JwjdqfBvSS0jHM_7a2MI-r6IjFHpLIQvrpI/edit】

